

和歌山工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	知的財産権		
科目基礎情報								
科目番号	0025		科目区分		一般 / 選択			
授業形態	授業		単位の種別と単位数		履修単位: 1			
開設学科	物質工学科（生物工学コース）		対象学年		5			
開設期	前期		週時間数		2			
教科書/教材	独占禁止法ガイドブック・必要に応じて資料を配布							
担当教員	後藤 多栄子							
到達目標								
知的財産権の基礎的法体系の修得と事例をまなぶ。特許アイデア創出や出願明細書作成に必要な基本技術を学ぶ。								
ルーブリック								
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安			
評価項目 1	知財の基礎を理解して説明することができる。		知財の基礎をおおむね理解して説明することができる。		知財の基礎の理解ができない。また説明ができない。			
評価項目2	知財の事例を理解して説明することができる。		知財の事例をおおむね理解して説明することができる。		知財の事例を理解できないし、説明できない。			
評価項目3	知財のアイデアを考えだし、具現化できる。		知財のアイデアをそれなりに考えて、おおむね具現化できる。		知財のアイデアを考えだせないし、具現化できない。			
評価項目4	特許庁への出願明細書作成ができる。		特許庁への出願明細書作成がおおむねできる。		特許庁への出願明細書作成ができない。			
学科の到達目標項目との関係								
A								
教育方法等								
概要	知財全般の基礎知識を習得することを目的に、独占禁止法を中心に知的財産権のさまざまな事例をとおして、知的財産権の企業戦略を学ぶ。知財全般の知識を深め、特許出願に必要な実践的知識や技術を指導する。							
授業の進め方・方法	独占禁止法を中心に知的財産権のさまざまな事例をとおして、知的財産権の企業戦略を学ぶ。知財全般の知識を深め、特許出願に必要な実践的知識や技術を指導する。時には外部講師(弁理士など)によるセミナー(アイデア創出・PBL)をとおして学生が学ぶ機会がある。							
注意点	COC科目である。2・3回にわたり、和歌山に関する知的財産の具体例を使って知財を学ぶ。							
授業計画								
		週	授業内容			週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	概要説明 市場と競争			市場における競争の役割を理解できる。		
		2週	不正行為と企業倫理			企業の倫理について理解できる。民法の不正行為のみならず他の法律による規制を理解できる。		
		3週	不正競争防止法			不正競争防止法が規制する行為を分類別に理解できる。ノウハウに関する規制を理解し説明ができる。		
		4週	経済憲法としての独占禁止法			競争と独占禁止法とかかわりが理解できる。		
		5週	独禁法が規制する3条前段の私的独占			私的独占の事例を理解でき、事例を説明できる。		
		6週	3条後段のカルテルや談合			3条後段のカルテルや談合の事例を理解でき、事例を使って説明ができる。		
		7週	独禁法が規制する19条の不正な取引方法 *地（知）の拠点*和歌山県に関する事例研究			独禁法が規制する19条の不正な取引方法の事例を理解できる。*和歌山県に関する事例研究を行い、論点を理解する。		
		8週	独禁法の適用除外となっている知的財産に関する21条			独禁法の適用除外となっている知的財産に関する21条を理解できる。		
	2ndQ	9週	商標法・地域団体商標 *地（知）の拠点*			商標法体系を理解できる。*地（知）の拠点* 地域団体商標の制度理解して和歌山県における事例を調査・加えて和歌山県の企業の商標の調査して、課題提出する。		
		10週	意匠法 *地（知）の拠点*			*地（知）の拠点*意匠法体系を理解できる。和歌山の企業の意匠を調査し課題提出する。		
		11週	特許法 *地（知）の拠点*パテント検索そして明細書の書き方			*地（知）の拠点*特許法基礎を理解できる。和歌山県関連や本校の教員の所有する特許検索をJ-Plat-Pat(特許庁のデータベース)を利用して調査し課題を提出する。明細書の書き方を学び書けるようになる。		
		12週	発明アイデアの創出方法（ブレインストーミングなど）			発明アイデアの創出方法を使用してアイデアを創出できる。		
		13週	著作権法			著作権体系を理解できる。著作物の理解、著作権者の理解ができ、実例で説明できる。		
		14週	著作権法			著作権体系を理解できる。著作権者が持つ著作権の種類を理解し、その説明ができる。また、適用除外を理解し、説明ができる。		
		15週	期末試験			期末試験		
		16週	試験返却・解説			試験返却・解説		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標								
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週	
基礎的能力	工学基礎	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	技術者の社会的責任、社会規範や法令を守ること、企業内の法令順守(コンプライアンス)の重要性について説明できる。			3	

分野横断的 能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	課題の解決は直感や常識にとらわれず、論理的な手順で考えなければならぬことを知っている。	3	
	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	法令やルールを遵守した行動をとれる。	3	
評価割合						
		試験		課題ほか	合計	
総合評価割合		50		50	100	
評価		50		50	100	